

「1日20分読書」運動

～心に残る1冊の本との出会い～

鹿児島県から広がった親子読書運動

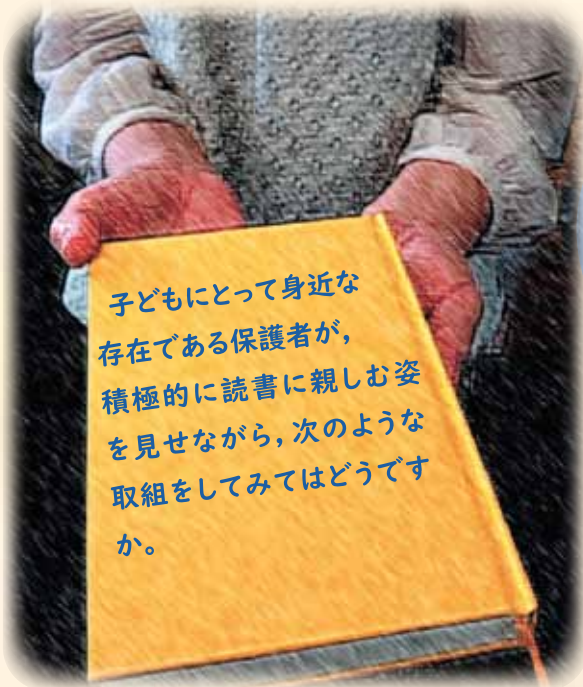
昭和35年、当時の県立図書館長であった椋鳩十氏の提唱による「母と子の20分間読書」から親子読書運動は始まりました。

「親子読書運動」は、親と子の、あるいは子ども同士のあたたかな交流を通して、豊かな読書の世界を子どもたちの中に広げていくことを目指してきました。



鹿児島県では、現在でも「1日20分読書」運動という形で継承して取り組んでいます。皆様のご家庭でも、家族一緒に本を読む時間を設けてみませんか？

家庭でどんな取組ができるかな？



子どもにとって身近な存在である保護者が、積極的に読書に親しむ姿を見せながら、次のような取組をしてみてもいいですか。

- 近くの公共図書館（室）や書店に出かけて本を手にとってみる。
- テレビやゲーム、スマホは少しやめて、家族で読書をする。
- 我が家の「読書の日」をつくってみる。
- 読み聞かせの時間をつくってみる。
（大人から子ども、子どもから大人へ）
- 家族で読んだ本を紹介し合ってみる。
- 家族で料理や工作などの本を読んで、一緒に作ってみる。

家庭や学校、地域で目標を決めて「1日20分読書」運動に取り組みましょう。
（例：「日曜日の夕食後は、家族みんなで必ず読書をする」「様々なジャンルの本を読む」など）

「我が家のめあて：」